

はあらず、唯塵芥を掃ため置て、五日にいたりてすつるなり、輦とは器に入れて昇もてゆくをいふ、そはともあれ家を掃ぬことは、此等のことによるにあらず。

〔萬葉集抄^{十九}〕梳毛見自屋中毛波可自久佐麻久良多婢由久伎美乎伊波布等毛比氏。

くしも見じやなかもはかじと云は、人のものべありきたるあとには、三日は家の庭はかす、つかふくしをみすといふ事のある也。

〔台記〕久壽二年十二月十七日庚寅傳聞今夜亥刻高陽院入棺云々出御之後民部大夫重成以竹帚掃御所。

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年正月二日、茲ゆごう御まいり、こぼし御はうきまんとす、御はきぞめあり。

〔視聽草^{七集四}〕寛永甲申正月御湯殿の記 寛永廿一年正月二日、○中こぼうしはうきまんとす、御はきぞめあり。

商始

〔日本歳時記^{正一}〕二月 商家にはあきなひ初ぞらをし、舟人は船乗初をす。

〔東都歳事記^{正一}〕二月 商家には、今日貨棧をひらき售を肇め、年禮に出る故に、市中賑ひて醉人街に多し。

〔大日本年中行事^{正一}〕二月、○中今日諸家各業とする所の藝を始む、商家は賣始スキハジメ農家は耜始スキハジメあり。

〔諸國年中行事大成^{正一}〕詠商始

八幡美濟

君が代のめぐみをうるもかふ人もおなじ心に祝ふはつ春

〔浪花の風〕正月二日は初荷として、元日夜半過より商物を車にて引出し、市中大に賑はし、江戸と替ることなし、其荷物に附添もの、大聲にて、賣たくと呼歩行くことなり。

〔洞房語園異本考異〕正月の買初めには蛤に限る、此蛤賣大門より入て、蛤々と賣あるき、買はんと